PMR 資格試験への挑戦　3

ミッションドリブン思想である､国産プロジェクトマネジメント方法論に魅かれて

中山コンサルティング合同会社 代表
中山　敦史

■　受験動機

私は、新卒でコンサルティングファームに入社したので、日々のプロジェクトワークにおける現場経験から、プロジェクトマネジメントに関するスキルは経験年数とともに積み上げられてきたとは感じていました。しかしながら、経験に基づいたスキルは最も有用である一方、その経験値は暗黙知でもある側面が大きいことから、形式知として体系だったプロジェクトマネジメント知識・手法を学びたいと考え始めたのが、最初のきっかけでした。そして、勉強するならばと、モチベーションを高く維持するために資格取得というゴールを設定することにしました。まずは、プロジェクトマネジメントにはどのような資格があるのかと調べたところ、P2M の存在をはじめて知りました。

P2M は資格としてはマイナーであるものの、2 つの点で魅かれるポイントがありました。1 つ目は、日本発のプロジェクトマネジメントであるということ。私は日本の電力・ガス業界向けのコンサルティング業務に主に従事していたことから、日本人が経験則に基づいて産み出したプロジェクトマネジメントが最も有効ではないかと感じました。この判断はクライアント視点で考えれば、至極当然の判断であり、やはり日本の商習慣に合うのは国産のプロジェクトマネジメントであったと今でも思っています。また、2 つ目は、「使命達成型職業人」という思想に共感したということ。海外のプロジェクトマネジメント手法のように、誰がやっても失敗しないための手法も大切であることは理解していましたが、自身の経験からクライアントへの提供価値として、より高付加な価値を提供すべきと常日頃、念頭において仕事に取り組んでいましたので、自身の信念に近い思想である P2M が私自身にとっては最適であると判断しました。

資格取得として、まずは PMS に取り組みましたが、PMS の資格試験はオンラインでの試験であることからインプット重視の勉強となってしまいました。アウトプットこそが、プロジェクトマネジメントで最も必要なスキルなので、実戦形式の資格試験である PMR にも挑戦することにしました。また、自分自身が培ってきたプロジェクトマネジメントのスキルが一般的に通用するのか確かめてみたかったという想いもありました。

■　受験の感想

一言でいえば、受験料は高いものの、受験して有意義な経験ができたと思います。普段接点のない業界や企業の方々と共同しながら実践的に取り組む試験だったので、客観的な視点で自分自身の仕事のやり方を見つめなおすことができたとも思います。
私が実際に PMR を受験した際、受験前に想定できなかったがありましたので、これから受験する方々への参考になればと思います。

① 普段の仕事や生活ではパソコンで文字を打つことに慣れていたので、筆記試験の際に大量の文字を書くときに腕と指が痺れかけました。事前に「PMR 試験紹介セミナー」や「PMR 養成研修」を受講することがお勧めです。
② 本業でやっているコンサルティング業務では、クライアント目線で本当に良いものを提案するといったことを重視していたので、2 次試験のワークショップにおいては、短時間という時間制約に加え、他受験者への悪影響を与えてはいけないという配慮も必要であり、自分自身が納得できるレベルでの提案ができませんでした。

【プロフィール】　中山　敦史（なかやま　あつし）
新卒で外資系コンサルティングファームへ入社。
その後、建設機械メーカーを経て、国内のコンサルティングファームへ転職。
主に、電力・ガス業界の事業者向けコンサルティングに従事。
現在、独立に至る。